

カドミウム汚染と

複合混合有効微生物群

(モンマバクテリサイクル)

三健ネット会 会長 門馬 義芳

暑中お見舞い申し上げます。記録的な猛暑が続いていますが、会員の皆様はお元気で過ごしてでしょうか。

このたびは、新たに判明した有効微生物群の顕著な効果についてお知らせいたします。

最近、またカドミウム汚染について非常に関心が高まってきております。

「食糧庁(当時)が一九九七年から4年間に実施した大規模な調査データをもとに、米に含まれるカドミウムが1ppm以上の「汚染米」が検出された4市町と、0.4ppm以上の「準汚染米」が検出された72市町村と、0.2ppm以上の米が検出された484市町村が、色分けされて記入されています。

日本では、汚染米は食用にすることが禁じられ、準汚染米は流通させてはいけな

いになっていきます。また、権威ある国際基準が採択された場合、何らかの対応をとらなければならぬ市町村は560になることがわかります。(二〇〇三年9月13日週刊金曜日)

カドミウム国際許容基準0.2ppm。しかし国側は「米のカドミウムを減らす技術的努力が可能なのは0.4ppm」と強調。米のカドミウムの現状について「仮に国内の基準値が0.2ppmになれば5万ヘクタールの水田が引つかか

れまではカドミウム問題はタブー視されており、県議会などでも「あの問題ですか」などと言

また、カドミウムへの関心も高まりが加速され、美味しくて、しかも安心への低カドミウムという売り込みも考えられ、魚沼産コシヒカリというブランド名だけでは売れない時代が来るとの予想があります。(平成16年6月25日日本肥料新聞) そのカドミウム汚染日本の救世主は有効複合混合微生物群「アーゼロン」(アーゼロン・C) モンマバクテリサイクルです。上表の平成15年12月1日のデータは、同じ圃場で2年連続栽培したアーゼロン米のカドミウム除去効果が顕著で、驚異的な数字を示しました。

なお、試験栽培検査報告(関係者)

- ① 日本ライフ株式会社
- ② 無添加食品販売 協同組合
- ③ (財)地球環境財団 環境農業推進センター センター 長渡部勉
- ④ J A 山本農協 八森支所職員 工藤雅樹

(1) 土壌

項目名	検査実施日	検出結果	検出限界値	検査方法
一般水田土壌	平成13年4月17日	1.6ppm		I.C.P発光分光法
アゼロン・C施用土壌	平成13年7月6日	1.2ppm		I.C.P発光分光法

(2) 玄米

項目名	検査実施日	検出結果	検出限界値	検査方法
慣行農法玄米	平成14年11月15日	0.16ppm		食品衛生法
アゼロン・C施用玄米	平成14年11月15日	0.12ppm		食品衛生法
連続2年アゼロン・C施用玄米	平成15年12月1日	0.02ppm		I.C.P発光分光法

自問自答

日本ライフ株式会社

常務取締役 門馬義幸

いつからこんなに気が短くなつたのだろう。待つという事がだんだん出来なくなつてきた。いらいらするのである。昔からこのような傾向はあつたが、ここまでひどくはなかつたと思う。人の話を最後まで聞けなくなつた。その結果、自分勝手に判断してしまい、相手の意図を理解しこなうことも増えてきた。

何でこんなに心にゆとりがなくなつてきたのだろうか。世の中のせちがらさに腹をたてているからではない。ファーストフードのせいでもない。駅そば、ハンバーガー、牛丼チェーンならば、注文したとたん、すぐに出てくるが、このような店には最近あまり入っていないから、その影響を受けているわけではない。やはり年を取つてきたからだろうか。年を取つてくると、他

人の意見に耳を貸さなくなる。いい例が巨人の渡辺恒雄オーナーである。野球界全体の将来のことを考えているようにはどうしても思えない。氏の言動から判断すると、ファン、選手の意見は聞かず、自分だけが正しいと思ひ、行動しているように感じられる。あと30年もすれば、私もあのようになつてしまふのだろうか。

オーナーを他山の石とし、反面教師とせねばなるまい。だが、年をとつても謙虚な方も多い。「実るほど頭のたれる稲穂かな」ということわざがある。実際、平成5年の冷害の際、中味の入っていない稲穂はまつすぐたつたままであつた。そのとき、稲も人間も中味の無いものは同じと思つた。しだいである。

物忘れも頻繁に起こる。忘れないようにメモをするのだ

が、そのメモをしたこと自体を忘れてしまうことがある。織田信長の頃は人生50年であつた。そう考えると合点もいく。気ばかり若いつもりでも、体がついてこなくなつていく。運動会でお父さん方が走るとき、気持ちに体がついていかず、転んでいる光景をよく見かけるが、今の私がある状態である。

だが、年を取ることはい悪いことばかりではない。ある程度の経験を積んだおかげで、多少は人を見る目が出てきた。また、話にだまされることも少なくなつた。以前は人の話を鵜呑みにしたこともあつたが、状況を見極めることによつて、ある程度は判断もできるよになつてきた。この世の中、おもしろい話はいくらでもあつたが、実際におもしろい話はほとんどない。一攫千金を狙うのは宝くじで3億円を当てるようなものである。地道にこつこつとやつていくしかない。うそ、ごまかし、はつたりはいけない。小学生でもわかるようなことを、大人の大人が何故わからなくなつてしまふのだろうか。雪印や三菱自動車ではないがうそは

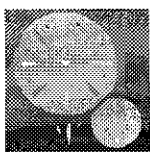
必ず發覚するものである。要はその人の生き方、人生観である。100歳を超えても日々成長する人もいる。

日々の精進とはかけ離れた生活をしている私などは猛省しなくてはならないだろう。仕事が終わればまず一杯。週に一度の休肝日を設けてはいるが、この一杯が私のささやかな楽しみである。だが、最近つい羽目をはずし酒に飲まれることがある。飲んだときることが記憶にないことさえある。以前はこのような飲み方はしなかつたのに反省する。もう、若くはないのだ。

ただ、将来のことだけは考へたい。100年先とはいわないが、少なくとも5年後、10年後の自分のこと、日本のことは絶えず、考へていたい。たとえば、農業問題である。2002年の統計では、約375万人いる農家の年齢構成を見ると、65歳以上が占める割合は全体の55%であつた。では、5年後、10年後はどうなるか。引退する方も多いだろう。後継者がいるならば問題はないが、いない場合はどうなるか。現在でさ

え、食糧自給率が40%の日本はいったいどうなるのだろうか。先送りされているWTO（世界貿易機関）での合意問題もあるが、日本に今のような価格で野菜を輸出できる国はどのくらいあるだろうか。世界の耕地面積はこれ以上増えないし、日本など一部の国を除き、急激な人口増加が見込まれている。一体どのようなものか、想像することさえできない。

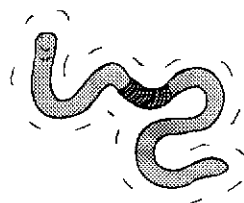
先日、会社の近くの狛江市の花火大会を見に行った。小川実さんが3日前から場所取りをしてくれたのである。飲みながら、多摩川の風に吹かれて見る花火は最高であつた。花火をこんな近くで見たのは生まれて初めてだったが、その美しさに思わず声を挙げた。感動する心がまだ残っている自分に少しほつとした。



ミミズの

働きを

考える



昔からミミズは畑の守り神といわれてきた。私たちが畑で目にするミミズはシマミミズとフトミミズの2種類である。シマミミズは別名「堆肥ミミズ」と呼ばれており、有機物だけを食べて土はほとんど食べないため、畑では残渣などを積んでいるところで見られる。釣りの餌に使われる種類でもある。フトミミズは土と有機物の両方を食べ、肥沃な畑で見られる。

ミミズの話になると、古くはアリストテレス(B.C. 330頃)やチャールズ・ダーウィン(1809~82)にまでさかのぼる。アリストテ

レスはミミズを「大地の腸」と言い、ダーウィンは「人間が耕すよりも前からミミズによって、土は掘り返されてきたのだ。」と述べている。気味が悪いということでも、とかく毛嫌いされる傾向があるミミズだが、海外でも豊かな土ができるのはミミズのおかげだと昔から注目されていたのである。

私は生ごみや落ち葉、刈り取った雑草などを庭の片隅に集め、ときどきアーゼロン・Cと米ぬかをふりかけ堆肥を作っている。最初はシマミミズがこれらの有機物を食べて、糞と尿に分解していく。春から秋まではミミズはものすごい勢いで増える。それに比例するかのようには生ごみはあっという間にミミズに食べられていく。シマミミズがこういった未熟な有機物を中熟堆肥くらいの状態に分解すると、フトミミズが取って代わるようになる。フトミミズはこの状態の堆肥を糞と尿に変えていき、それらが完熟堆肥となる。この段階で畑に撒くことができる。時には堆肥の中にフトミミズが入っている場合もあるが、そのまま撒くこと

にしている。ミミズの存在そのものが、土や作物に好影響を与えるからである。畑では堆肥にアーゼロン・Cなどを混ぜ、1週間から10日間寝かせた後、播種や定植することにしていく。おかげ様で畑には多数のフトミミズが住み着くようになった。アーゼロン・Cとの相乗効果もあり、年々、土は肥沃になっていく。

現代農業(2004年8月号)の特集「ミミズはスゴイ」によると、ミミズには以下の5つの働きがある。

- ① 食べる・・・有機物と土の分解
- ② 糞をする・・・肥料供給、物理性改善他
- ③ 粘液を(尿)を出す・・・肥料供給、殺菌作用他
- ④ 動き回る・・・孔をあける、土を耕す、肥料や菌を根のそばに移動する
- ⑤ 死亡する・・・死骸は最高の即効性肥料になる。

ミミズは1日に自分の体重と同じくらいの餌を食べ、出す糞の量は体重の1/2以上

にもなるという。この糞には窒素、リンサン、カリウムなど作物に必要な養分が含まれている。また、ミミズの糞は団粒そのもののため、土壌の改良にも大きな役割を果たしている。団粒といえば微生物が作る団粒もあり、ミミズが多い畑はそれだけ微生物も多く、団粒もそれだけ多くなる。ミミズの尿が悪玉菌に対し殺菌力を発揮することもある。

ミミズが動き回るることによって出来たトンネルは通気性がよくなり、しかも雨が降った場合には排水もよくなる。ミミズが直接病原菌を食べたり、悪玉菌の生活条件を悪化させる場合もある。おまけに死んでもミミズは即効性肥料になるのだから、ミミズは自然界のスーパースターといえるだろう。外見のせいで、嫌われているのが可哀想である。家庭菜園でなくて長いミミズが出てくると、叫び声をあげてそのミミズを道路に投げ捨てる人もいる。今後はそのようなことはしないでいただきたい。ミミズは畑の守り神なのだから。

新品種に挑戦!

レッドムーン

レッドムーン(ジャガイモ)を栽培してみました。

3月初めに植えました。いただいた種芋の割に、畑が広くないので、芋を切らずに1個をそのまま植えました。肥料は自家製堆肥とアーゼロン・Cです。追肥はアーゼロン・Cを土寄せの度に与えました。ジャガイモは通常2本立ちにして、他の芽はかき取りますが、今回はあえてかき芽をせず、伸ばせるにまかせてみました。レッドムーンはかき芽をする必要がないと教わったからです。7月に収穫しましたが、予想以上に取れました。1株に20個以上の芋がついたのです。取れすぎたため、友人達に送ったり、近所におすそわけしました。黄色が鮮やかで、味もおいしいと評判でした。



アーゼロン農家の

近況報告

健康ファミリー 2004年8月号(文理書院)の特集記事(鈴木静夫さんの「青汁」で血液サラサラ! 4カ月飲用実験で菊池祐二先生(食品総合研究所 上席研究官)確認 pp.70-75)で、鈴木静夫さんの青汁が紹介されました。

食生活は従来そのまま、「青汁」を4ヶ月間、毎朝200cc継続的に飲用した結果、6人全員血液のサラサラ度が高まりました。実験を行った菊池祐二先生(独立行政法人・食品総合研究所 食品工学部 上席研究官)は「青汁には葉緑素とビタミンCが豊富に含まれていますが、これらは血液の粘性を高める活性酸素の産生を抑制する働きがあります。」と述べています。

鈴木静夫さんの青汁は農薬、化学肥料を使わず、「アーゼロン・C」を施肥して栽培したケールから作られています。

通販生活(2004春号)の2003年度「食品ベスト10」では鈴木さんの青汁が堂々第4位に選ばれています。

(株) 成城石井さんの店頭に見る、渡辺茂利さんのレタス(長野県川上村)と藤田伸一さんのホウレン草(栃木県鶏頂山)が並んでいます。

成城石井さんのホームページ「7月のバイヤーいちおし」のコーナーでは、渡辺さんのレタスが紹介されています。大石将博さん(㈱成城石井・野菜担当スーパーバイザー)の紹介文を引用させていただきます。

「健康な野菜は健康な土作りから!」これが渡辺さんの信念です。土壌には小麦、米ぬか、大豆粕、有効微生物群入り肥料等を施し、化学農薬の使用を極力控え、植物抽出液などで虫除けをしています。洗浄にもこだわり、より良い水(セラミックスポウル)を使い、鮮度保持に気を使っています。標高が高く、昼夜の寒暖差があるので、有機質肥

料と相俟ってレタスは甘みを増します。手間をかけて元気に育ったレタスは「パリッ」とした食感のうえ、苦味が少なく、甘ささえ感じるほどです。高原の朝露を浴び、生産者が一生懸命育てたレタスは是非、ご賞味ください。

カ タログハウス「通販生活」の「有機ミネラルアーゼロン」は春先から現在まで順調に売り上げを伸ばしています。家庭園芸用肥料2kg4袋で1セット(商品番号2180941 価格4,410円+送料600円)の販売です。



連絡先

<http://www.cataloghouse.co.jp/>

お問い合わせ(0120・164・164)

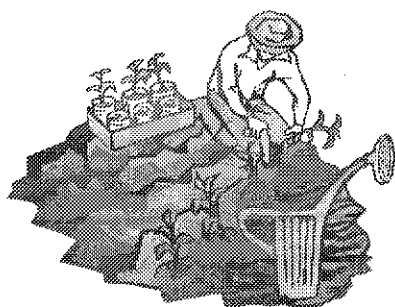
なお、家庭菜園用の「有機ミネラルアーゼロン」(2kg)は通販生活だけの販売となります。

今年で、家庭菜園を始めて、4年目になる。自分ながら、かなり上達したと思う。最近 は計画を立てて栽培もするようになった。たとえば豆類だが、昨秋に撒いたスナップエンドウが5月初旬から収穫でき、3月に撒いたものは6月には収穫できるようになった。ゴールデンウィークに撒いたビックリジャンボ(モロッコエンドウ)は7月初旬には実を結び、1ヶ月遅れで撒いたものも7月下旬には収穫できるようになった。この暑い中、

家庭園芸だより

家庭園芸4年生になる筆者が、試行錯誤の上、日々成長しています。

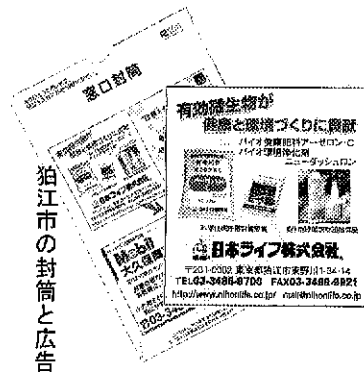
結構実を結んでいる。7月中旬に撒いた、つるありインゲンも今ではつるが30cm以上伸びている。1ヶ月もたてば、花が咲き、秋まで収穫が可能だと思う。今年計画した1年を通しての豆類の収穫は予定どおりいきそうである。現在、収穫できるものは定番のナス、キュウリ、トマトの他に、上記のビックリジャンボ、今一番人気のゴーヤ、オクラ、ピーマン、シントウ、モロヘイヤ、サラダ菜、スイスチャードなどがある。心配事は週末菜園のため、雨が降らないのに、週末しか水やりができないことである。今年のような猛暑では人間も野菜も十分な水分補給が必要である。



近況報告

狛江市の封筒に広告掲載

狛江市商工会では、商工業振興の一環として昨年より狛江市の総合窓口で使用している封筒に、新たな試みで、商工会員の広告を掲載し、昨年8月から市民課窓口で使用しておりますが、今年度は日本ライフ(株)も他の企業と共に窓口封筒に次の広告を掲載いたしました。(掲載企業10社 封筒の印刷数 6万枚)



狛江市の封筒と広告

門馬義芳会長

褒章クラブより表彰

三健ネット会会長、日本ライフ(株)の門馬義芳社長は

鬼塚会長より表彰状を授与される

門馬会長



褒章クラブの理事としても活躍中ですが、この度褒章クラブ創立30周年の記念式典にあたり、「科学技術の振興と発明思想の普及啓発に取り組み、褒章クラブの事業活動に深い理解と情熱を寄せ、事業基盤の強化に貢献した」として表彰されました。

雑誌、新聞に掲載

㈱オーム社発行の電気の実務誌「新電気」5月号に「オンリーワン企業への道」と題

して、この不況を乗り越えるのは、表現力、向上心を持ち、自分の得意技を発揮してチャレンジしていく発明家達であり、日本ライフ(株)の門馬義芳社長はこうした道を歩み、発明というクリエイティブな活動を続けてきた経営者の1人であるとし、門馬社長の経歴を記述、テレビの研究開発、その後有効微生物群「アーゼロン」を開発し、特許取得した事、「エレクトロニクスとバイオテクノロジーの融合」という新発想を展開し「健土、健食、健民」をスローガンに地球と人に優しいバイオ健康肥料・環境浄化製品等独自の商品を生に送っているという内容の記事が掲載されました。

- ☆ 肥料農産新報6月25日号に、日本ライフ(株)の近況と題して次の記事が掲載されました
- ☆ 日本ライフ(株)の門馬義芳社長が「A-Z-X(ニューダッシュロン)」について各地区で講演を行った。
- ☆ 日本ライフ(株)は府中受発注情報交換会に参加し、門馬義芳社長が各商品の説明を行った。
- ☆ 日本ライフ(株)は「アーゼロン肥料」に「ブラック

ミネラル」を配合した新製品「アーゼロンゆうき」を開発し、商品の販売を開始した。

- ☆ 日本ライフ(株)は通信販売会社「カタログハウス」と取引が決まり、家庭園芸用肥料「有機ミネラルアーゼロン」(アーゼロンゆうき)の納入を開始した。
- ☆ 北海道根室市で水産系廃棄物の肥料化製造処理施設が操業を開始し、これに使用する微生物の効果について比較試験の結果、日本ライフ(株)のアーゼロン菌が優秀と判定された。
- ☆ 台湾の有力企業「統一企業」の一行を迎え、勉強会が開催され、日本ライフ(株)の門馬義芳社長による有効微生物群「アーゼロン」についての講演とアーゼロン施用農場の見学等を行った。
- ☆ 日本肥料新聞6月25日号に「微生物でカドミ抑制、開発にしのぎを削る民間企業」と題して、食品などのカドミ含量の抑制で微生物の利用が注目されているが日本ライフ

㈱の微生物資材アーゼロン・Cを使用して栽培したアーゼロン米は一般栽培米と比較してカドミウムの含有濃度が低く、抑制効果があった事、微生物を利用してのカドミ抑制については民間企業が先行しているが国としても積極的な関与が必要ではないだろうかという内容の記事が掲載されました。

フジサンケイビジネスアイ7月19日号の「逆転の発想」欄に「有効微生物配合の肥料組み合わせが最大のノウハウ」と題して、微生物は環境の改善等に役立つことが知られているが、日本ライフ(株)の門馬義芳社長は微生物について30年以上にわたって研究を続け、農業をはじめ、ゴミや家畜の糞尿処理などで実績を上げています。そして土壌の改良、作物の成長促進、その他の効果のために開発したのが有効微生物群を配合した「アーゼロン・C」である。アーゼロン・Cに含まれる微生物の働き、配合、肥料の効果等についての門馬社長の説明とこれまでの経歴や研究についての考え方の記事が掲載されました。

新商品

「アーゼロンゆうき」

ご使用者の声

れほど期待しておりませんでした。

主人の好物の枝豆を栽培してみましたら、いつもより茎が太いような気がして、食べたらびっくり。本当においしい。主人も腕が上がったなどほめてくれて、ちよつと鼻が高くなりました。だけでもつとびっくりしたのは、収穫後、整理した枝豆の根です。すこく立派な根で、これは初めての経験です。さすが、アーゼロンゆうきはすばらしい効果があると認識した次第です。

早速、次もアーゼロンゆうきを使おうと思ひ、教えていただいた土のリサイクルを実行中です。

今春、新商品「アーゼロンゆうき」を販売し始めてからようやく半年がたちました。最近、ご使用者の方々から、感想をお聞きできました。ご紹介いたします。

プランターで最高の枝豆が

庭が狭いので、プランターでの花づくりをしております。数年前からせめて、夏の間、野菜づくりができないかと思ひ、始めました。事務局の方に勧められて、アーゼロンゆうきを使ってみることにしました。はつきりいつて肥料はどれも同じような気がしてそ

自慢が増えました



「近所皆さん、御庭づくり熱心で、それぞれが丹精こめておやりになつています。私もがんばつておりますが、古い自宅で、今、流行のガーデニングにはほど遠いのが現

実です。ご近所の方々の情報交換で有機肥料のアーゼロン・Cがいいと知りました。自分なりに有機栽培を心がけてきましたが、何かひとつ足りないや常々思つていましたので、日本ライフ(株)に連絡して三健ネット会に入会しました。お隣さんと共同購入しています。

お蔭様で、今では土ができてきたせいででしょうか、周り比べても見劣りしないなど内心思つております。

昨年植えたアメリカン芙蓉が完全に枯れてしまい、どうしたものかとご相談しました。寒さのせいもあり、根は生きているかもしれないといわれ、アーゼロンゆうきを試してみることになりました。

するとどうでしょう、あきらめていた芙蓉がグングンのびてきて、もの見事に蘇りました。それだけでもうれしいのに、花の数、大きさともに最高の出来となりました。枯れて、もう捨てようとおもつていたのに、花の美しさに皆さんびっくりしています。玄関先のミニ花壇と合わせて私の自慢となつています。



カラーでお見せできないのが残念です。

お二人のうれしいお便りをいただいて、私どもも感激しております。

アーゼロンゆうきはアーゼロンの微生物パワーと炭のミネラル分が期待できる特殊肥料です。この肥料を使用することで作物の根の張りがよくなり、丈夫で力強い生長が期待できます。また有機栽培にも最適ですので、ぜひ一度お試しください。

ただ、窒素分が多いので、ご使用にはぜひご注意ください。

お問い合わせをお待ちしております。また、皆様方のご意見もお気軽に寄せてください。

編集後記

2年前の編集後記で「こんなに暑い夏は初めてのような気がします」と書きました。今年「2年前の夏よりはるかに暑い夏です」と書きます。夏バテしないように、水分と睡眠は十分に取るようにしています。まだまだ暑い夏は続きます。(YM)

アーゼロン・C施用のトマトで冷えたビールをグイッと一気飲み。たまらない。今日こそ、今日こそ休肝日と決意する毎朝です。お便りをいただいたように来年はプランターで、自作の枝豆とビール。最高ですよ。(YO)

大手銀行の合併とか騒ぎになつていますが、多くの銀行が合併したせいで、会社の近くの駅に店舗がなくなつてしまい、ATMが並ぶばかり。何かのときは大変不便です。そういえば8年間で5回も名前が変わつた信金もありました。(KI)

